



NO. 024

# FAS通信

平成17年4月号

株式会社福地建築

上磯町中野通321番地

TEL0138-73-5558

## 人は必ず年老いていきます

人はどんなことをしても日に日に年を重ねていきます。2015年には、日本の人口の25%以上が65歳以上の高齢人口になると言われております。厚生労働省がまとめた「平成15年簡易生命表」によると、日本人の平均寿命は過去最高を更新し、男性は78.36歳、女性は85.33歳となりました。（ちなみに、昭和30年の平均寿命は、男性63.60歳、女性67.75歳です。）世界の中で一番の長寿命国ということになります。しかし本当に、“65歳が高齢者”と言う定義がこの時代にも通用するのでしょうか。最近の高齢者といわれる65歳はまだまだ元気で、決して数十年前の65歳とは老い方が違うのは、皆様も感じるところではないでしょうか。数十年前に定められた基準によって量られては、今の時代の速さについていけないのかもしれない。

住宅業界をみてもそうです。住宅寿命30年といわれる現在、（国土交通省発行の建設白書（平成8年度）によると26年）いまだに住宅寿命は非常に短命なのです。いまだに住宅業界では、昔ながらの感覚で進められていて、今の時代の速度についていけないのかもしれない。それと、高齢者にあった住宅と言う定義があまり議論されていない気もいたします。実際に高齢者に合った家とはどういうものを言うのでしょうか。メンテナンスが少なく、長持ちし、強く、丈夫そして、家族が生き生きと生活できる空間、二人だけになっても、一人になっても地域と共に生活できる住宅を考えるべきではないでしょうか。いまの住宅業界を見渡してみると、見せかけの部材部材の強さを競い合ったり、やみくもに断熱・気密を求めたり、ただ見た目だけのデザイン性を求めたり、儲けだけを追及した、売り手側の都合で造られた家が多いような感じがいたします。家という全体のバランスを考えず、自分のものが売れば良いという、偏った家づくりの一員も少なくありません。強さを求めて、金物をたくさん使用しても、構造躯体に湿気がたまるよう

は、見せかけだけで非常にもろい住宅になりますし、暖かさ・涼しさを求めて、断熱・気密の正しい知識を持たないがために、木材が呼吸できず腐る住宅になってしまったり、デザイン性を追及するがために住んでみたら、強さや暖かさ、涼しさを忘れて快適ではない家になってしまったり、儲けを重視する家づくりをするがために、使用される部材の量や質が落ちてしまって、長期に渡って住める家ではなくなってしまうのです。

今まさに住宅の変革期です。天に向かって吐いた唾は、必ず自分に帰ってくるのです。今は、元気に働いている私達もいつかは年老いていきます。その時に、自分達が売らんがための思想で進めていた家に住んでしまい、後悔をするようなことをなくさなくてはいけませんし、家を考えられる方は、長い間住める家づくりと出会うために、家を建てる前に勉強する必要があるのではないのでしょうか。一生に一度の大きな買い物といわれている住宅。「聞くは一時の恥、知らぬは一生の損」。家づくりで、失敗しないために、ぜひ勉強会に参加してください。全国各地で住まい講座が開催されています。知らないことはどんどん聞いて、自分に合った長く付き合える家と工務店を探しましょう。

## 後の知恵

### たわしでカーペット掃除

赤ちゃんがいない家でもカーペットはきれいにしておきたいよね。カーペットってのは、毎日掃除機をかけててもチリやホコリが入り込むから、手入れが大変なんだよね。そんな時「亀の子だわし」がとっても便利なんだよ。

よく乾かした亀の子だわしをカーペットに当てて、毛足の流れと逆の方向へブラッシングしてやるんだ。こうすると、カーペットの毛足に絡まったゴミが表面に浮き出してくるんだよ。ゴミが出てきたら、今度は毛足の流れに沿って、もう一度ブラッシングしてやるといいんだ。たったこれだけで、ゴミが取れてきれいになるんだよ。その上、毛並みまできれいに揃って見た目も綺麗になるんだよ。

